

第4回(2003年)日韓女子大学科学教育合同フォーラム報告

前世紀の最後の年2000年に本学の提唱で“the Joint Forum for the Promotion of Education and Research in Science for Women toward 21st Century”としてスタートした日韓女子大学科学教育合同フォーラムも、開催校が一巡し(本学のあと、梨花女子大(韓国)、お茶の水女子大で開催)、第4回は2003年8月21~23日に再び本学目白キャンパスにて開催された。今回は、「男女共同参画社会における女子大学科学教育」をテーマに、総参加者172名、全体会における講演6件、引き続き分科会における口頭発表37件、ポスター発表20件のほか、学内見学ツアーやレセプションパーティを交えて行われた。まず、後藤祥子学長の挨拶に始まり、続いて板東久美子氏(文部科学省)の基調講演「Gender equality and education in science」、さらには、3女子大学(韓国・梨花女子大、日本・お茶の水女子大、日本女子大)における科学教育の取り組みが紹介され、活発に議論がなされた。その後、具体的な活動の成果を示す意味で、分科会に分かれ、各大学教員のほか、自然科学の各分野でキャリアを目指す各大学学生による研究発表が行われた。本フォーラムは、各参加者にとり、専門分野を超えた議論と相互理解を通じて、今後のそれぞれの活動に役立つであろう刺激と指針を互いに与えあうとともに、日韓両国の、特に若い世代の、友情と相互理解を深めるきわめて有意義な機会となった。

人口・食糧・環境問題など多難な時代が予想される21

世紀、女性の社会への貢献なくしては世界の維持・発展は望めない。特に少子化の加速が予想される日本や韓国にあつては男女共同参画社会の実現は必要かつ必然である。しかし現実には、両国においては大きな男女差が未だ厳然と存在しており、これらの克服が、両国のみならず、今世紀最大の世界的な課題の1つといえる。そのような現状の認識の上に、女子大学として長い伝統をもち、これまでに多くの女性科学者を輩出してきた日本女子大、お茶の水女子大ならびに梨花女子大の、理学部、家政学部の教員と学生が、女性科学者育成へむけた各大学・各学部の取り組みを紹介し合い、自然科学の世界における男女共同参画実現へむけた問題点、方策などを議論し、2国間における女子大・女性自然科学者のネットワーク作りを模索する場として、また同時に、将来有望な女性科学者の卵ともいえる大学院生が研究発表をそれぞれの分野で行い実力を培う場として、さらには、各分野での日本と韓国の共同研究の可能性を追求し、これまでの枠組みを越えた新たな科学の創成へ向けての女性科学者の貢献について論ずる場をも提供することができたのではないかと考えている。次回は、2004年9月に韓国梨花女子大にて開催の予定である。

なお、今回のフォーラムは本学の学術交流研究費に加え、初めて日韓科学協力事業セミナーとしての支援も受けた。関係各位に篤くお礼申し上げる。

(文責：黒沢 格)



熱心に聞き入る皆さん



パネルの前も人だかり